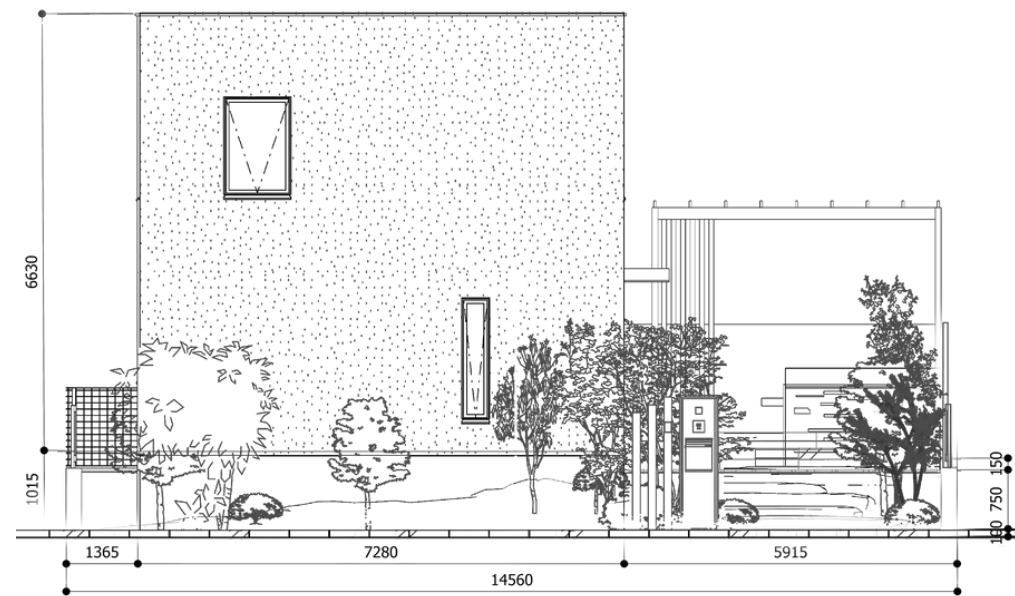


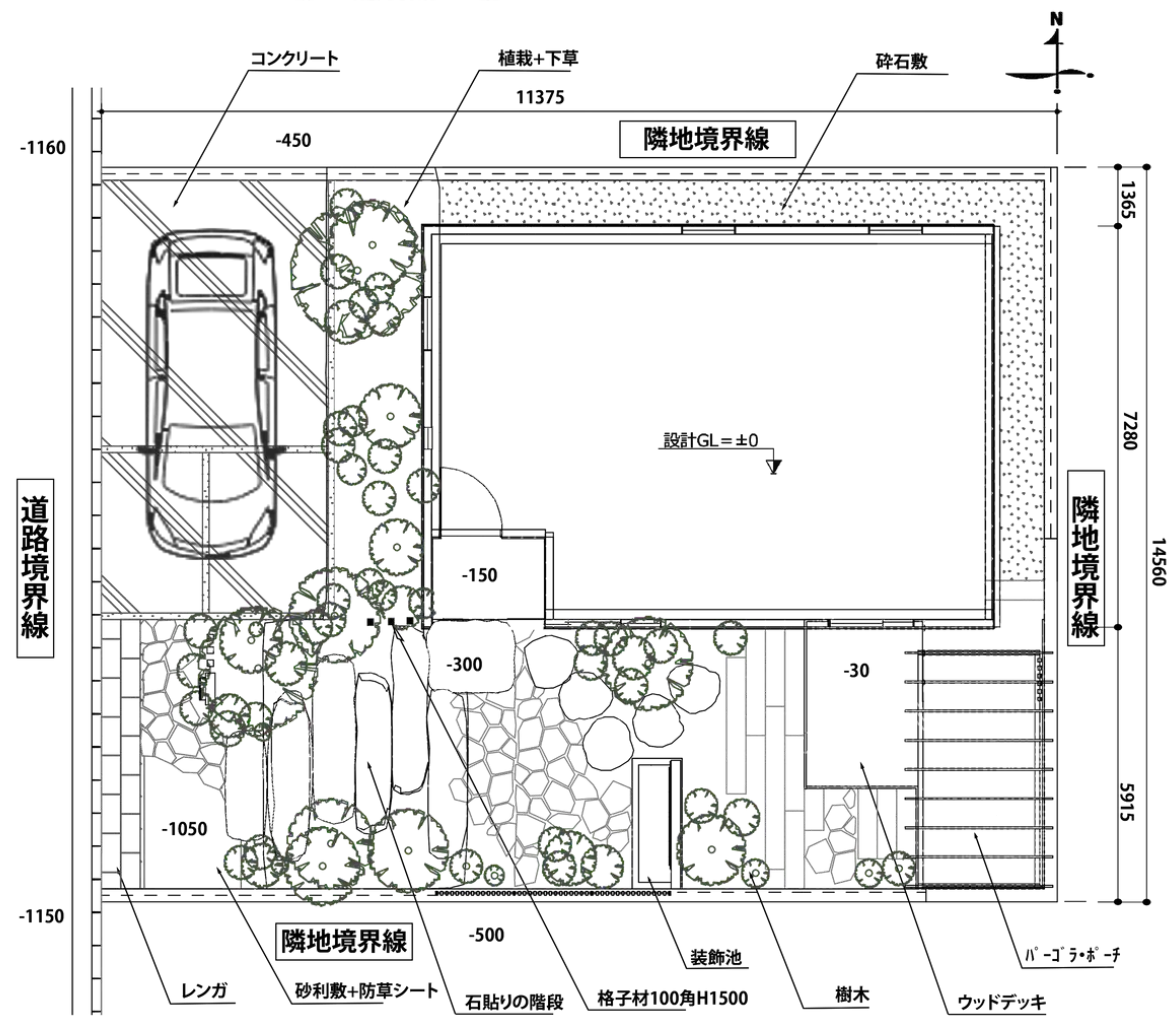
# 木漏れ日と夜の息吹

SUNLIGHT FILTERING THROUGH THE TREES AND THE BREATH OF THE NIGHT

建築はミニマルな構成と自然との関係性の中で形づくりられ、光や緑、そして余白が、空間における緩やかな時間の流れを規定する要素として用いられている。



立面図

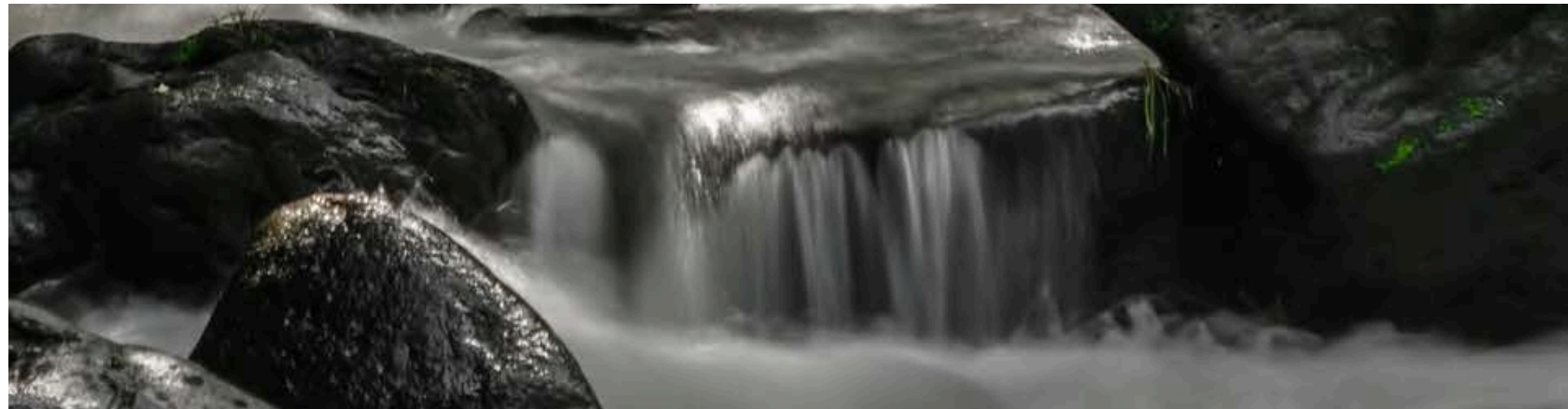


平面図



# 木漏れ日

日本は、私にとって深い印象を残した国です。アニメを通して出会った日本の風景には、木陰に響く蝉の声や、坂道や階段を歩く中で感じられる静かな時間の流れがあります。葉の隙間から差し込む木漏れ日は地面に柔らかな影を描き、昼から夜へと移ろう中で、空間の表情を穏やかに変化させていきます。本計画は、自然と建築、光と静けさが共存するその瞬間を空間として再構築する試みで計画しております。



# 夜の息吹

夜の息吹は、あたたかなの光から始まる。静かに坂道や見慣れた階段を照らし、木々の影がやわらかく落ちて、路面や石の壁に重なっていく。光は闇を急いで追いかうことなく、ただ十分な距離を保ちながら、ゆっくりとした足取りを導く。深い静けさの中で、道と階段、光と影はひとつのリズムを奏で、夜は一日を閉じるのではなく、そっと余韻を残しながら息をつづけていく。

# 木漏れ日

灯りはそっと庭に触れ、長い一日のあとに残されたひと息のように佇み、木陰と石の間で光は多くを語らず、ただそこに在り、空間は静まり、人は立ち止まり、自分自身の内側に耳を澄ます。



# 夜の息吹

夜が訪れると、庭はもはや眺めるための風景ではなく、ひとつの濃密な気配へと変容していく。

